

西日本区メネット事業 20 年の歩み

《第 1 期》

1997年7月1日～1998年6月30日

事業主任 山 野 みき子（広島クラブ）

主 題 明日のワイズはメネットの笑顔から

骨髄移植推進財団支援と

1991 年より継続事業の地球ウェルネス

《第 2 期》

1998年7月1日～1999年6月30日

事業主任 坂 本 智（和歌山紀の川クラブ）

主 題 手をつなぎ、手をさしのべよう

ヒヤリングドッグを育てる会への支援

盲導犬に比べて、支援も少なく、まだ認知度も低く、消される命の捨て犬を聴導犬に育てるセンターに国内プロジェクトの支援先に決めて、当時は合同メネット会と部会が別の日にあったので、各部会を2回ずつ走り回った一年間でした。その年に夫の入退院、我クラブの西日本区大会のホスト・・・と私のワイズヒストリーの中で一番変動の年でしたが、そこでワイズのたくさんの出会いとワイズの楽しさを教えていただき、その年に私はメネットからメンバーに入会いたしました。

《第 3 期》

1999年7月1日～2000年6月30日

事業主任 北 村 京 子（大阪土佐堀クラブ）

主 題 21世紀に向けて羽ばたくメネット

聴導犬・ヒヤリングドッグを育てる会への支援を継続

テーマに

- 1、国際プロジェクト セネガル（生に関する健康問題）
ブルガリア（YMCA ガブボ地区開発センター）支援
- 2、国内プロジェクト 聴導犬「ヒヤリングドッグを育てる会」支援
- 3、ブリテンにメネットコーナーを、メネット活動への理解、各部メネット間のコミュニケーション、その活動とメッセージを伝える場として活用して頂き毎月のブリテンを拝見するのが楽しみでした。

《第 4 期》

2000年7月1日～2001年6月30日

事業主任 陳 貞 恵（熊本クラブ）

主 題 愛の果実は奉仕、奉仕の果実は平和

障害者自立の店ひまわりとカフェひまわりの支援

メネット国内プロジェクトは、自立の店ひまわり『カフェひまわり』の支援でした。ひまわりが熊本 YMCA 中央センターだった事もあり、多くのメン、メネットにご支援いただきました。

2001 年 鹿児島での西日本区大会にて、ひまわりで頑張っているチャレンジドと、その人達を支えている多くのボランティアの人達と舞台に上がり、ご報告させて頂いたことを本当に嬉しく思い出されます。2016 年 1 月より、就労支援 B 型 特定非営利法人ひまわりパン工房として、中央区国府にて平日のみ営業している事をご報告し、改めて、皆様の暖かいご支援に再度感謝いたします。

《第 5 期》

2001年7月1日～2002年6月30日

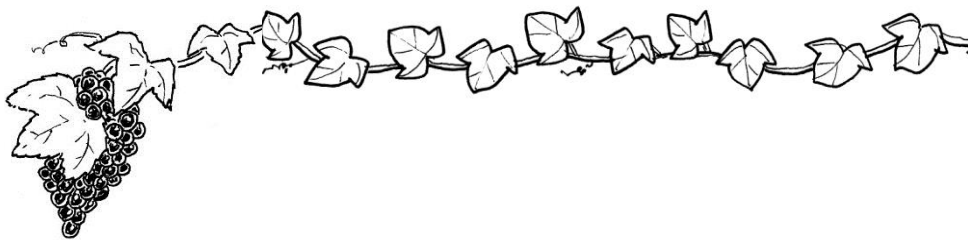
事業主任 仁 科 節 子（京都キャピタルクラブ）

主 題 輪になって共に楽しくメネット活動

介助犬を育てる会への支援

2001 年は「ボランティア国際年」で有り日本区が東西分割されて 5 年目で西日本区はその時からワイズメンの婦人は全員メネット会員であると決められました。

故大槻理事のお考えで有ったワイズメンの婦人はメネットである事の周知徹底をお願いしました。メネット事業として国内プロジェクト「介助犬を育てる会」への支援と致しました。介助犬が家族になったとき身体機能に障害を持った人々が社会参加出来る事を願い、命の大切さ、家族の大切さ、生きるということの本当の意味を考える良い機会にしたいと思いワイズメン、メネットの皆様にご介助犬について理解を深めていただくと共に、暖かいご支援ご協力をお願い致しました。期末に皆様のお働きを献金できました事は大きな喜びでした。ワイズメン、メネットの皆様にご感謝申し上げます。



《第 6 期》

2002年7月1日～2003年6月30日

事業主任 白 井 公 子（大阪長野クラブ）

主 題 メネットが蒔いた種子から地域に夢を
スペシャルオリンピックス理解を進め、
長野冬季世界大会のための支援

国内プロジェクトの実施にあたっては、皆様の大切な献金を有意義に使うため各クラブのメネットが主体性を持って取り組んでいる事業についてアンケートを実施して集約しました。その結果、次の3点にさせていただきました。

- ① 「スペシャルオリンピックス日本」支援
- ② 重度障害者施設「大阪あいりん地区炊き出しの会」支援
- ③ 「熊本 YMCA 国際センター日本語学校」における留学生のためのパソコン購入援助

西日本区大会でのメネットアワーでは、メネットの心の癒しを目的にしたミニコンサートを実施しました。坂井 孝之氏のフルート・オカリナ、一井 伸介氏（草津クラブ）のギターと素晴らしい演奏・美しい音色に聴く人の胸を熱く打ちました。メネットの参加者は 190 名を越えました。

《第 7 期》

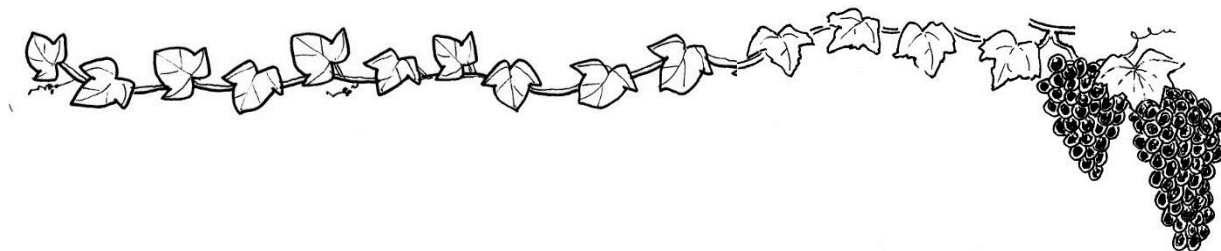
2003年7月1日～2004年6月30日

事業主任 畑 本 久仁枝（京都トゥービークラブ）

主 題 「未来へ繋ぐ為に」

スペシャルオリンピックスと、
アフガン難民の子供たちのための「絵本づくり大作戦」

メネット事業として取り組んだ「絵本づくり大作戦プロジェクト」では、充実した時間と貴重な体験をさせて頂き、今もその記憶が鮮明に残り当時を思うと感動が甦ります。この事業は、その後の私の人生に大きな影響を与えたと思います。思いを形にしていく、実現していく、課題や困難を克服していく上で、多くの皆様のご理解とご協力が不可欠という事も学ばせて頂きました。改めてワイズメン、メネットの寛容な精神にリスペクトを捧げます。本当にありがとうございました。



《第 8 期》

2004年7月1日～2005年6月30日

事業主任 石 合 昭 子（大阪西クラブ）

主 題 メネットの和(輪)を広げ ともに働こう

“すべての人にハッピーシャワー”

Stop HIV/AIDS への支援とスペシャルオリンピックス支援

メンバー及びメネットの皆様の温かいご支援を受けまして「SO（スペシャルオリンピックス 500 万人トーチラン）」をサポートするTシャツの販売と「STOP HIV/AIDS」のピンバッジの販売を通じて、たくさんの募金を出来ました事は大変感謝しております。また「500 万人トーチラン」を SO 大阪と共に大阪府河内長野市で実施したときは、地元在住の元メネット主任の協力を得て、市長をはじめ行政や障がい者団体・一般団体・ボランティア等多くの方に参加していただき大きな盛り上がりとなりました。支援金も日本で 1 番多く集まったと聞いています。

皇太子殿下もご臨席された SO 冬季世界大会（長野市）に大阪長野クラブの白井 公子メネットと参加した事は良い思い出となりました。そして SO 日本理事長・細川佳代子様と出会えた事。西日本区大会メネットアワーでご講演を賜りました事。感謝です。

《第 9 期》

2005年7月1日～2006年6月30日

事業主任 菅 美代子（熊本ひがしクラブ）

主 題 愛を追い求めなさい！

“愛は家庭から、そしてワイズ、地域社会へ”

YMCA 留学生への支援

YMCA 留学生を対象に大阪 YMCA でスピーチコンテストを開催しました。最優秀賞を獲得したカマル・カルナーラタナさん（38 歳）は、その後、九州ルーテル大学心理臨床学科を卒業し、現在、同ルーテル学院中学校特別支援コーディネーターをしています。童謡で音楽活動をしながら不登校や発達障がいの子の相談、心の悩みに耳を傾け、愛を注いで、今も熊本で活躍しています。

《第 10 期》

2006年7月1日～2007年6月30日

事業主任 松 田 洋 子（大阪豊中クラブ）

主 題 ファミリーで参加しよう、ワイズダム、世界の愛が見えてくる。

全国 YMCA ピース・リーダーシップ・プログラム」を支援

《第 11 期》

2007年7月1日～2008年6月30日

事業主任 林 成 子（奈良クラブ）

主 題 メネットの笑顔はY'sの宝物 楽しみましょう！メンと共に
子供の幸せを願うエイズ予防教育、WYSH への支援

亀浦メネット事業主任がおっしゃる通り、日本に数少ないファミリーが参加できるボランティア団体です。私も当時、この事を申し上げてきました。日常生活では知ることのできない、社会問題が多くあります。その1つ1つに心を寄せ、知識を増やし、日々感謝し、ボランティアにつながる喜びを感じていたいです。

社会問題に目を向け、家族の和、親子の絆、夫婦の絆を深める媒体にする、母の力、妻の力を発揮していただきたい、と思っていました。

ワイズメンさんの活動を越えて、広く社会の問題を捉えられるのが、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区メネット活動の特徴だと思っています。

《第 12 期》

2008年7月1日～2009年6月30日

事業主任 田 上 かつみ（熊本むさしクラブ）

主 題 「小さな奉仕は大きな喜び」 広げよう地域へ‘メネットのねがい’
発達障がいをもつ子どもに関わるリーダー育成研修会支援

8年前、YMCA では「発達障がいを持つ子ども」を支援するプログラムをいち早く立ち上げておられ、それに関わるリーダーの育成研修会を阿蘇のキャンプ場で開催しました。その折、2人のお子さんがオカリナとピアノの演奏をされ、神様が一人ひとりにかけがえのない「賜物」を与えてくださっていることを実感しました。

発達障がいへの理解と支援は、その後も YMCA とワイズ活動の中で継続されていることに心より感謝いたしております。

《第 13 期》

2009年7月1日～2010年6月30日

事業主任 森 愛 子（神戸クラブ）

主 題 「メネットのねがい」を広げ、その喜びを共に分かち合いましょう
心的障碍(しょうがい)を負った方がたへの理解と支援
(「自殺防止センター」の支援)

事業主任をさせて頂いた当時、自らの命を絶つ人が年間3万人を下らないという社会問題が起きていました。命を絶つ理由は生活苦、病苦、心の病気などさまざまなようです。

そのような人たちは電話を通してSOSを発してくると言われています。受話器を取って彼らの悲痛な叫びに耳を傾け寄り添って下さるという、大変地味で困難なお働きをされている方々を、微力ながら応援したいと思い事業主任の活動をさせていただきました。

賛同し、協力して下さったワイズの皆さんの優しさが今も忘れられません。本当にありがとうございました。

《第 14 期》

2010年7月1日～2011年6月30日

事業主任 坂 本 千 春 （大阪センテニアルクラブ）

主 題 「愛の心」～原点に立ち返って私たちに出来ること～
豊島神愛館への支援

主題に従い子供たちの支援を考えた時「豊島 神愛館」との出会いがありました。豊島は瀬戸内海にあるのどかな小島です。

神愛館はイエス団 賀川豊彦氏ゆかりの乳児院です。ここには0歳から3歳までの様々な事情で親と暮らせない乳児が生活していました。私は神愛館を訪問し愛らしい子供たちに接して何かできることをしたいと強く思いました。当時の館長の一番の希望は軽自動車でした。皆さんの支援のおかげでピンクの軽自動車を送ることができました。神愛館は現在「かがわ子ども子育て支援センター」として場所を香川県坂出に移転していますが、今もピンクの軽自動車は活躍中です。

《第 15 期》

2011年7月1日～2012年6月30日

事業主任 大 澤 玲 子 （熊本ひがしクラブ）

主 題 「若者に夢と希望を！」メネットの愛で豊かな心を
東日本大震災支援

2011年3月11日世界を震撼させた未曾有の東日本大震災が起こりました。メネット事業として、被災地支援のため西日本地区YMCAボランティアリーダーの活動経費の補助をしました。大震災当時は、自分達なりにできる支援で、東日本の方がたの悲しみ、苦しみに少しは思いを寄せていたつもりでした。

しかし自ら熊本地震を経験して、東日本の方がたの思いをほんとうに分かっていなかったのではと痛感しました。だんだん忘れられていく事が一番悲しいといわれていましたが、同じ被災者となり理解できます。

《第 16 期》

2012年7月1日～2013年6月30日

事業主任 野 村 靖 子 （名古屋東海クラブ）

主 題 「愛と奉仕の継続を」メネットのやさしさを奉仕のすみずみまで
東日本大震災支援のため「心のケアプログラム」

国内プロジェクトは、形式は異なりますが、前年に引き続き、東日本大震災支援と致しました。震災によりここに傷を負った子どもたち、被災者にそっと寄り添うことを主眼とした「こころのケアを考える講習会」を西日本区各部ごとに開催していただきました（8部9カ所 467名参加）。

講習会は、現在他住の主事からDVDを使い、現地の状況と復興の支援活動実態等の報告。そしてテキストを用いて専門分野の大学教授による「こころのケアを考える」の2本立てとしました。受講者には受講証を発行しました。

被災地にボランティアに行く時、被災者に「そっと寄り添うこと」の大切さを学びました。

《第 17 期》

2013年7月1日～2014年6月30日

事業主任 谷 本 久美子

主 題 メネットパワーを結集し、感動をわかちあいましょう！
「エイブル・アート」、「ボーダレス・アート」展開催支援

西日本区大会メネットアワーで配布した「メネット事業活動報告書」を見ながら、本当に多くのメン、メネットの方々のご協力のもと、各部で素晴らしい「障がい者アート展」や講演会が開催されたことや、西日本区大会での「WAKU WAKU アート展」が多くの感動をもたらしたことを思い出しました。関わっていただいたすべての方々の力が1つになって、個性を持ちキラキラとした障がい者アート作品に光を当てることが出来てよかったと思います。

《第 18 期》

2014年7月1日～2015年6月30日

事業主任 西 村 寛 子 （京都プリンスクラブ）

主 題 私にできること・・・ あなたにできること・・・

心の声に耳を傾け メンとメネット 二人三脚で いきましょう！
「希少難病問題」への関心と支援

毎年メネット事業主任はメネット事業について悩んでおられると思う。ワイズの組織にあって、ワイズのことをあまりに知らないメネットに、メンにもない区を挙げての事業を計画し、取り組みという事は土台、難問以外の何物でもない。しかし引き受けた以上、何とか形ある事業にしなければとの思いで私の場合「希少難病患者支援」を国内事業とした。

認知度の低い希少難病について多くの方に知っていただき、身近な所から私たちに何が出来るかを考える機会づくりと、困難な状況下で難病治療に取り組んでおられる研究者、治療者に支援の手を差し伸べたいと事業展開させて頂いた。大きな成果を得て一年は終わったが、継続こそに意義があると思い、現在も「豚肉ファンド」なるものを立ち上げ、継続支援をさせていただいている。メネット事業は啓発を旨として、継続できてこそ価値があると信じている。

《第 19 期》

2015年7月1日～2016年6月30日

事業主任 遠 藤 典 子 （大阪泉北クラブ）

主 題 メンと共に メネットはワイズの応援団

東日本大震災支援、東日本区北東部仙台3クラブと もりおかクラブの
「被災地支援活動」及び「被災地訪問交流会プログラム」の支援

私たちメネットは、これまでも多様な支援活動を続けてまいりましたが、この様に苦難を抱えられて尚、支援活動をされておられるワイズの皆様に、ご協力をさせていただいたことは御座いませんでした。復興までほど遠い、復旧の過程にある、被災地の方々の支援になればと、三陸産のわかめの販売をさせていただきました。この際、訪問した岩手県大船渡にある、鎌田水産の皆様には多大なご尽力を頂き、また交流させていただいたことは、私の財産となりました。1年間お支えいただきました皆様のご協力に感謝申し上げます。

《第 20 期》

2016年7月1日～2017年6月30日

事業主任 亀 浦 尚 子（熊本にしクラブ）

主 題 「前に向かって！」 “ For the future ! ”

一緒に進もう仲間とともに！ 自分のペースで始めてみよう！

フリースクール箱崎自由学舎「えすぺらんさ」への支援

福岡 YMCA、「えすぺらんさ」の子どもたちと先生、ワイズメネット協働の自立に向けたプログラム 2泊3日の `スタディープログラム in 沖縄、が実現しました。

子どもたちが話し合いを重ね、みんなで共に作り、みんなで参加する、そのプロセスそのものが自立に向けたプログラムでした。再び目標を持ち、いきいきと夢に向かって進んでくれます様にと祈ります。残った支援金は「えすぺらんさ」の環境整備費の一部としました。



感謝のことば

ワイズメンズクラブが西日本区になって、今期で 20 年になります。人生において、子どもが生まれて成人式を迎えるということは、とても喜ばしいことです。そこまで成長するには、いくつかの困難があると思いますが、それを乗り越えて現在に至っています。この 20 年間に、日本を揺るがすような東日本大震災と熊本地震がありました。ワイズメン・メネットの皆さまのお支えに大きな勇気をもらいました。心から感謝申し上げます。

この度、西日本区メネット事業 20 年を振り返ってみました。その一つひとつにメネット事業主任の思いや、当時の状況が懐かしく甦ります。ひとりの力は小さいけれど、葡萄の実が連なるようにメン・メネットがともに力を合わせて働けば、誰かの役に立つということが証明されています。この 20 年の歩みを礎に、メネット事業が未来に向けて継続され、さらに充実していくことを願ってやみません。

亀浦尚子

